

「無線式骨伝導補聴装置の開発」

三井造船システム技研（株）

工学部 福祉システム工学科（奥教授、黒田教授）

Keywords：コードレス 10m 以上の伝達 音響装置との親和性 健常者にも便利

「開発目的」

高齢化社会を迎え、聴覚機能を助ける、無線式骨伝導補聴装置を開発し、難聴者、難聴者予備軍の方々に対し、コミュニケーションを支援する目的と音響装置との接続インターフェース開発による、劇場、講演会場、学校等々での使用を可能とし、聞き取りにくい場所での、健常者にも適用出来る装置として、教育、医療、福祉分野に貢献する。

「特徴」

マイクと受信機間を無線で通信することにより、コードが有ることによる煩わしさから開放される。又受信機に採用した超磁歪素子は周波数特性と変換効率に優れており従来の骨伝導補聴器では聞き取れない人でも鮮明に聞き取れます。



骨伝導のしくみ

通常、音声は鼓膜を通して受け取ります。骨伝導は音声を振動に変えて直接頭蓋骨に伝えます。これが内耳に達し、聴覚神経を通して脳に届き、音として感じます。

